

第3回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会

議事録

平成24年11月5日（月）14:00～

中津川市健康福祉会館4階多目的ホール

【司会】 それでは、定刻となりましたので、平成24年度第3回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会を開会させていただきます。

皆様には、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の進行を務めさせていただきます中津川市企画部技監の安保と申します。よろしくお願いたします。

初めに、報道機関の皆様をお願い申し上げます。写真撮影につきましては、挨拶、報告に入るまでとさせていただきますので、ひとつご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、初めに、中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会の竹内委員長からご挨拶を頂戴いたしたいと存じます。

竹内委員長、お願いいたします。

【委員長】 竹内でございます。

今日は皆様、お集まりいただきましてありがとうございます。今年は秋が遅いと思っておりましたら、急に晩秋の雰囲気が出てまいりまして、大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

リニア中央新幹線の整備につきましては、最近では、直接進捗の情報が入ってくる立場に私もございませんが、しかし、仄聞（そくぶん）するところでは、特に大きなトラブルもなく順調に進んでいるようでございます。一方、それを受ける地域づくりにつきまして、この会議もそういう観点から重要な委員会でございますけれども、県のほうも、それから中津川市のほうも、これも特段に大きなトラブルはなく、順調に皆さんの議論が進んでいるというところは大変ご同慶の至りでございます。

ただ、こういう新しい地域づくりをどうやって進めていくかということの議論は、そんなに慌ててやることでもないというふうに私はちょっとゆっくり構えておりましたのですけれども、先月の初めに、坂下のほうに伺いましてちょっとお話をさせていただき、地域の方々と懇談する機会があったわけでございますけれども、そこでおっしゃられたこと、建設の工事が始まると、その工事の関係者が地域に入りこんでくる。あるいは、工事が進んで、トンネル廃土が出てくるということになれば、それを地域でどう処理するか、あるいはどういう経路で処分されるか、というあたりのところは、地域にとっては非常に重要なことであると。特に工事関係者の地域に入ってくることが、地域の定住促進という観点からプラス側に使えるようにすべきだと。

そういう議論をするということになりますと、これは実は、そんなに時間的余裕がない。おそらく2年後、3年後あたりには、その議論が、大体、いわゆる戦略といいますか、対処方針の基本は定まっていなくてまずいのだろうと、こういうふうに思います。そんなことを、今ごろ何を言うかとお叱りを受けそうですが、気づかされました。そんな点も含めて、この委員会では、皆さんのご議論をいただけるといいのではないかと考えております。よろしくご協力をいただきますようお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

それでは、ここで、11月1日付で岐阜県の組織改革がございました。今回、新たに岐阜県リニア推進事務所長にもこの会のオブザーバーに参画いただくことをご承諾いただいております。地元で事務所を設置していただいたことは、当市にとりましても大変心強く、大変ありがたく存じているところでございます。当市のビジョン策定に格別のご理解とお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

ございます。

つきましては、今回、岐阜県リニア推進事務所長を兼務されることとなりました野原所長より、ご説明を兼ねて自己紹介をお願いしたいと思います。

野原所長、よろしくお願いいたします。

【委員等】 どうも皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、リニア推進事務所の野原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

これまで、このまちづくりビジョン策定委員会には、恵那土木事務所の所長ということでオブザーバー参加させていただきましたが、本日から、兼務となりましたリニア推進事務所という立場でもありまして、オブザーバー参加させていただくことになりました。既に新聞報道等でご存じの方もあろうかと思いますが、少しお時間をいただきまして、この11月1日に設置されましたリニア推進事務所につきましてご紹介をさせていただきたいと思っております。

当事務所は、県の都市建築部の出先機関、現地機関ということで、恵那総合庁舎の3階のほうに設置されました。名前のおり、リニア中央新幹線の建設推進に向けて、中津川市をはじめ、沿線自治体とも連携を図りながら、リニアの整備とリニアを活用した地域づくりや地域の活性化に資するというふうなことを主な目的としております。また、リニアの建設主体でありますJR東海との調整役も担っていくということにしております。

とりあえず、スタッフといたしましては、ひとまず3名の専任の職員を充てておりまして、地元東濃地域におけるリニア推進の窓口ということで、皆さんとともに取り組みを進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、同日付で県の公共交通課の中には、リニア推進係というのも新たに新設いたしまして、本庁におけるリニア推進体制の強化も、そちらのほうも図ったというふうな次第でございます。併せてご紹介させていただきます。

つきましては、これまで、県の公共交通課のほうから出向いてこの会に参加させていただいておったわけなんですけれども、今後につきましては、リニア推進事務所と恵那土木事務所というような立場でパイプ役の役割を担っておりますので、ひとつよろしくお願いいたしますと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。

同じく、リニア推進事務所のリニア推進課の課長にご就任になりました岩田課長、ひとつ自己紹介をよろしくお願いいたします。

【委員等】 皆さん、こんにちは。11月1日付で、リニア推進課長として就任いたしました岩田でございます。

10月までは、県の公共交通課のほうでリニアの関係の仕事をしておりまして、引き続き、リニアの推進に尽力をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

それでは、ここで資料の確認をさせていただきたいと思っております。資料につきましては、事前に送付をさせていただいておりますけれども、本日、新たに配付させていただきました資料につきましては、アンケート調査の集計結果、次第、名簿、配席図となっております。また、参考資料といたしまして、11月8日に開催されます「リニア中央新幹線と岐阜県のまちづくりを考える」の講演会の案内がございます。今一度資料一覧表にてご確認をいただければと存じます。

それでは、報道機関の皆様、写真撮影につきましてはここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本策定委員会につきましては、資料及び議事録を全て公開することとさせていただいておりますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、早速報告事項に入らせていただきます。

まずは報告1「第2回策定委員会の意見と対応について」ということで、事務局より報告をさせていただきます。

【事務局】 三菱UFJリサーチ&コンサルティング、宮下が説明させていただきます。座って失礼します。

まず、報告1-1の資料をご覧くださいと思います。

第2回策定委員会の意見と対応についてという表形式のものでございます。この表を見ていただきますと、左側にリニア開業時の社会情勢についてということで、8月に行われた第1回ではご意見をいただきました。2つ目に、リニアの波及効果を生かす取り組みの検討について、3つ目にアンケートについて、その他と、こういったご意見です。

リニア開業時の社会情勢についてということにつきましては、次の報告1-2で詳しく説明いたしますが、意見としましては、中津川市の位置付けにつきましては表現も含めて、東京との関係を強調していくべきであるとか、2つ目、3つ目では、飛騨路、木曽路、三河や渥美など、こういった広範囲の地域を捉えるべきじゃないかといったご意見が出ました。東京から中津川に来やすくなることももっと強調すべきであるとか、名古屋圏との繁栄等、名古屋との関係をもう少しイメージしてほしいといった意見、その他に、社会情勢につきましては、労働人口の変化など、具体的な情報を加えるべきであるというご意見をいただきました。これにつきましては、右側に対応が書いてありますが、報告1-2で説明させていただきます。

続きまして、リニアの波及効果を生かす取り組みの検討についてということですが、意見としましては、周辺地域の住民が、リニアについて自地域の事象と捉えられるようリニアの効果についてしっかり伝えていく必要があるということです。これにつきましては、アンケートを実施しましたし、これからも適宜市民のほうに伝えていきたいと考えております。

2つ目以降の話につきましては、農林、林業の話であったり、3つ目、歴史的な観光資源であったり、4つ目、観光振興には地域の魅力を地元民が知り、連携していくことが重要であるとの話であったり、心臓病外科や産婦人科など医療の話、リニアそのものが観光資源として活用していったらどうかといった話、食べ物などをきっかけとして観光の幅を広げていけばいいんじゃないかと。こういったことにつきましては、これからビジョン策定をしていくわけですが、その中に盛り込んでいきたいと考えております。

アンケートにつきましては、アンケートを今回、市民アンケート2,000票、企業さんにも約2,917票配っておるわけですが、こういった大規模で行うので中身をしっかり設計してほしいと。こちらにつきましては、後ほど結果のほうがありますので、説明させていただきます。

その他としまして、新駅の整備、運営に当たっては、JRとの交渉が重要となってくるというご意見がありましたので、適宜これはJRと協議していくということになろうかと思っております。

一番最後のリニア開業により当地に首都機能のバックアップは可能かのご意見がありましたけれども、こちらにつきましては、東京と名古屋の関係もありますし、名古屋と中津川の関係、こういった位置付けをしっかりと踏まえて検討していきたいと考えております。

続きまして、報告1-2のほうに説明を移らせていただきます。

これは、前回、ビジョン策定委員会の8月に行われた時点では、地図とポンチ絵とあわせて説明させていただきましたが、先ほどのとおり、広範囲に取り扱ったほうが良いといった意見もありましたので、修正してございます。中身としましては、大きな変更はございませんが、概念的なところを明示化したというところが変わっています。その点について、2ページ目、こちらを中心に説明したいと思っております。

図1ですけれども、これは現況の東京と名古屋間の位置関係で、新幹線1時間40分、前回ご案内のとおりでございます。こういった位置関係が、図2のように東京と名古屋というのが40分で結ばれます。まず一番先に起きてくるのは、名古屋のポテンシャルが上がるということだと認識しています。その中で中津川というのがどういった位置付けになるかということを図で説明してあります。

1つは、中津川の右側、円で中津川の駅が描いてあるんですけれども、その中に矢印が方々に出ていますけれども、下呂、高山、木曾、市内各地、恵那、三河、東濃各地、こういったところに東京から来る人が中津川を介して様々な展開ができる。つまり、首都圏住民を受け入れる地域として中津川市は位置付けられると、その中で、東京から来る人、首都圏人口というのは約3,600万人いますから、そこの数パーセント来ることですえ大きなインパクトだろうと。これが中津川のもう1つの位置付けです。

もう一つは、左側になりますけれども、名古屋との関係です。この名古屋の関係、名古屋のポテンシャルが上がるというところでいきますと、中津川のこれまで培ってきた名古屋との関係でそのステータスが上がってくるだろうと、一体となって繁栄する地域として中津川があるだろうと、こういった表現で整理しております。当然、名古屋と中津川の間、在来線を含めて利便性が高まるということが方向として必要になってくるんじゃないかという整理でございます。

図3につきましては、さらに、2027年以降、大阪まで開業した時の図ということで大阪が加わっています。大阪までリニアができますと、西日本との流動につきましても、直接中津川に人々が来るようになる。こういった日本の中で真ん中に位置する中津川になるような位置付けになりますということをつけ加えております。

続きまして、3ページにいきまして、そういった位置関係は変わってくるんですけれども、将来、人口減少がどれだけ進むかといった整理をしております。人口減少社会における交流活発化の重要性の高まりと車両基地で働く従業者増加に期待ということでございます。

1つ目は、全国的な人口減少が進むことから、地域活性化には交流人口を増やすことの重要性が増すということで、図4の下のグラフを見ていただきたいと思いますが、2010年、我が国の人口というのは1億2,800万人います。2030年になりますと、1億1,660万人ぐらい、約1割減るということで、中津川地域というのでも1割ぐらい減るだろうということになります。一方で、老年人口という下から2つ目のグラフになりますが、現状2,924万人いるのが、2030年には3,684万人ということで爆発的に高齢者が増えると。こういったところも含めて戦略を考えていくべきじゃないかという整理をしております。

2つ目としましては、中津川市には車両基地ができると従業者が移住することによる人口増加に期待。車両基地というのは、中央リニア沿線地域で相模原と中津川、2つできるということですが、大体1,000人規模の従業員が来ると言われています。そうしますと、例えば1,000人規模の従業者が家族形成していると仮定すれば、子供がいて、奥さんがいて、働く人がいてということになれば3,000人、4,000人といったところも大きく考えられるわけでございます、こうした方々が中津川市に住めば、そういった消費が活性化されて経済もプラスに向かうんじゃないかといったところがあります。いかに移住を促すかといったところが大事じゃないかということで、ここの車両基地による人口増加を提示させていただきました。

報告1については以上になります。

【司会】 ありがとうございます。

ただいまのご報告につきまして、何かご質問がございましたら。

それでは、ないようでございますので、次に、報告2「アンケート調査の集計結果」につきまして、事務局より報告をさせていただきます。

【事務局】 続きまして、報告2-1ということで、まず、市民アンケート集計結果（速報版）というのをご覧いただきたいと思っております。

簡単に説明させていただきますが、まず1枚目、こういった規模で行われたかということですが、9月に実施いたしました、配布数2,000票で回収886票、回収率44.3%。通常のこういったアンケートでの回収率では良いほうの回収率となっております。

調査内容はといいますと、大きくはリニア中央新幹線を知っていますかというような設問と、リニアのあるまちづくりに関してということで、中津川市の魅力であるとか、まちづくりのあり方等を聞いております。併せて、日常の市内の交流状況についてということも市民の方々に聞いております。

整理としましては、全体の結果、地区別の結果、性別、年齢別といったような形で、今日は集計結果のみということで、まだ分析等は進めておりませんが、ビジョン策定のほうに行くに当たって分析を進めていきたいと考えております。

2ページが回答者の属性ということで、先ほど申したとおり、性別、年代別、地区別、職業というのが、今、2ページにあるような構成割合で回答が得られました。

3ページにいきまして、リニア駅及び車両基地が設置されることを知っていますかという質問をしました。全体では知っていたという方が95.5%ということで、ほぼ市民全員が知っているような形になります。従いまして、地区別、性別、年代別も、皆さん知っているということで、大きな差は見られておりません。

5ページにいきまして、リニア開業により中津川市から東京まで50分、名古屋まで10分で行けるということを知っていますかと、中身を知っていますかという質問をしたところ、全体としましては、知っていたが6割ということになっています。地区別で見ますと、例えば真ん中の神坂であったり、坂下、川上といったところは5割、半分ぐらいはまだそこまでの情報は知らないといった状況でございます。

6ページにいきまして、性別でいきますと、男性のほうがそういうことは知っていたと、69.7%知っていましたと。年代別でいきますと、60代が高く知っていたという方が多いと、こういった結果になっております。

7ページにいきまして、リニア開業の影響として期待することということで、全体を見ますと、大いに期待する、期待すると、ピンクとベージュの色になっていますけれども、ここが大きいところにつきましては、2番目、東京や名古屋への移動がしやすくなること、新たな企業が立地し雇用が確保されること、こちらが期待することが多いと。

この2点につきまして地区別で見ますと、8ページの2段目、東京や名古屋への移動がしやすくなることで見ますと、中津南、中津西がその期待が大きく、一方で、阿木とか川上といったところは、期待はそれに比べて高くないと。

③の新たな企業が立地し雇用が確保されること、その下のグラフでございますが、こちらにつきましては、坂本が50.5%と高くなっておりまして、中津東、阿木、坂下といったところは2割ぐらいで低いというような状況でございます。

10ページ、性別になりますけれども、性別で見ますと、こちらのところにつきましては、大体男性のほうが期待するということが高いというような傾向になっております。

続きまして、年代別ということで、11ページ、12ページのグラフをご覧いただきたいと思えます。年代別で見ますと、この矢印が描いてあるグラフ、①の観光客やビジネス客が増えることにつきましては、年代が上がるごとにその期待する度は高くなっています。70歳以上は若干減っていますけれども、そういった傾向です。②の東京や名古屋への移動がしやすいことは、若い世代ほどそういった期待が大きいと、そういった結果が見てとれます。

続きまして、13ページのほうにいかさせていただきます。現時点での他の地域に伝えたい中津川市の魅力は何ですかということで、全体としましては、「身近に山や川など、自然が豊富にある」が8割と、これが圧倒的に強い結果となっております。

14ページへいきまして、これを地区別で見ると、細かくなって申し訳ないんですけども、先ほど、自然が一番大きい魅力だと言った地域というのは、上から2段目、右から2番目の阿木のところ

が、93.9%。同様に、右下の加子母、一番下の福岡が自然が魅力だというような意見が見てとれます。

同様に、性別、年齢別というのが15ページにあります。後ほどご覧いただければと思います。

16ページ、ここは、リニア時代(約15年後)に残しておきたい、あるいは高めたい中津川市の魅力ということで、先ほどと同様に、傾向としては、①の「身近に山や川など、自然が豊富にある」といったところが皆さん残しておきたいということです。中段、票数は少ないんですけど、⑨の「犯罪が少なく安心して住める」というのが8.7%。②の「街道や景勝地など観光名所が豊富にある」も8.7%で、こういったところが魅力として残していきたいといった市民のご意向がございませう。

続きまして、19ページへいきまして、中津川市のまちづくりの方向性といったところについてです。全体としましては、薄い色のところ、「中津川市の自然、景観等に配慮しながら地域の活性化に必要な開発等を行っていく」が77.7%で一番大きなパーセンテージとなっております。地区別で見ますと、この赤い丸で描いてあるところが若干他の地区と比べて差が見られるかなということですが、大体7割、8割は、今申し上げました「自然、景観等に配慮しながら地域活性化に必要な開発を行っていく」といった回答がございませう。

続きまして、21ページへいきまして、リニア駅周辺のまちづくりの方向性です。こちらにつきましては、2つに意見が分かれております。全体で見ますと、「リニア駅前広場などの交流拠点として必要な開発にとどめ、中津川駅周辺の中心市街地との役割分担を図っていく」が48.4%。一方で、「リニア駅周辺で商業施設や住宅地等の開発を広範囲に積極的に行い新市街地を形成していく」が43.5%といった傾向になります。

地区別で見ますと、例えば、中津西ではピンクのところ63.8%と、役割分担を図っていくという割合が高かったり、逆に坂本のほうでは51.5%の方が新市街地の形成をしていくといったような意見が若干多いというところなんです。大体半々といったところになります。

23ページへいきまして、私たちや私たちの子供・孫が、これからもこの地域に住み続けていくために必要なことということでございませう。全体では、「働く場所の確保」というのが43.1%で最も多く、次いで、緑の「福祉、医療サービスの充実」、そしてピンクの「豊かな自然や歴史文化の継承」ということでございませう。

地区別で見ますと、先ほど言った「働く場所の確保」といったところにつきましては、下のほうの川上、加子母、付知、蛭川といったところの割合が高くなっています。一方で、「福祉、医療サービスの充実」ということであります。中段の坂本、神坂、山口、坂下といったところが高くなっておりますし、「豊かな自然や歴史文化の継承」でいきますと、阿木、神坂、福岡といったところが割合が高くなっております。

追加的なところで、日常の市内の交流状況についてということで別紙で書いてあります。これは、前回の委員会のほうで、市の職員へのヒアリングで整理したものがあつたかと思ひますけれども、それをアンケートのほうでさらに中身をpushしておこうといった趣旨でやつたものでございませう。

図の見方を説明しますと、丸で地区名が書いてあります。赤い濃いところは地区内の移動が50%以上。この場合は中津が50%以上。薄いところが20%以上。白いところは20%未満で、地区外に移動が多いといった見方です。実線が最も高い割合、他の地域に行く割合が高いところのエリアです。太ければ太いほどその割合が高いということで、例えば落合の方が中津に行くというのは、50%以上の方が通勤通学で中津に行くといった見方になります。破線のほうは、1位以外であるけれども20%以上の割合のある地域ということで示してあります。通勤通学につきましては、大体中津のところは一極集中しているようですが、蛭川、阿木といったところは市外、特にここは恵那が中心だと思ひますが、そういった流動が多いと。移動頻度につきましてはほぼ毎日といったところなんです。

2ページ以降、同様に見ていきますと、こちらも通勤通学と同様、中津に中心になりますが、蛭川、阿木といったところは市外が多くなります。ただ、頻度につきましては、ほぼ毎週ということで、週に一、二回というところが一番多くなつてございませう。

3ページに行きまして、日常の通院になりますと、先ほどと違いまして、濃い赤色の地区が多くなりまして、地域内でいろいろ移動されているという方が多くなっております。これも同様、蛭川、阿木というところは市外の割合が高くなっております。

4ページになりまして、縁故ということで、親戚、知人訪問につきましては、それほど地区外を越えるような流動というのはなかなかなくて、各地区内での流動になっているという傾向が見られます。移動頻度としまして、年に数回とかほぼ毎月で、月に数回といった頻度になっております。

余暇の外出につきましては5ページになりますが、ほぼ外食等でいけば、中津に一極集中しているような形ですが、これまでと同様に、蛭川、阿木といったところは市外に行っているといった傾向が見られます。

一番最後のページですけれども、余暇、レジャーのところにつきましては、市外に行く方が多いということでございます。

こういった市民アンケートの結果でございます。

続きまして、アンケート調査の集計結果、企業アンケートの結果ということでございます。そちらの資料をご覧いただきたいと思っております。

企業アンケートにつきましては、1ページですけれども、市民アンケートと同時期に行いました。商工会議所、北商工会の会員の事業所にご協力いただきました。配布数は2,917で、回収数1,115、回収率38.2%ということです。調査項目につきましては、リニア開業に当たり感じている期待ということと、中津川市の将来像についてということでございます。

2ページ目が回答企業者の属性になっております。所在地区、業種、従業者規模というような構成になっておりますし、3ページ目にいきまして、事業所における直近1年間の売り上げの状況といたしますと、減少しているが58.7%といった状況でございます。ちなみに、ここで集計している業種の「その他」の中には、農林水産業、運輸業、不動産業といったところが入ってございます。主な取引先のある地域というのは市内が大体66.9%で、その他、愛知県、三重県と広くいったところが、1割ぐらいが第1位の取引先といった傾向になっております。こういった属性の企業の回答になっておりますが、回答結果について4ページへいきます。

中津川市にリニア駅と車両基地ができることについての期待度につきましては、「大いに期待している」、「期待している」を合わせますと、5割以上で期待しているほうが若干多いという傾向になっております。業種別で見れば、「建設業」、「飲食・宿泊業」、「その他」というところが2割ぐらいの大いに期待しているになっております。一方で、「飲食・宿泊業」については、「期待していない」といったところも25%見られて、こういった業種の差は見られます。

5ページへいきまして、リニア開業に期待することということですが、全体としましては、「首都圏への移動がしやすくなること」、「名古屋への移動がしやすくなること」ということが期待が多くなっておりますし、一番下の「リニア駅の在る都市の事業所としてイメージアップにつながる」ということも全体として期待が高いような状況になってございます。

業種別はまたご覧いただきたいと思っておりますが、続きまして、9ページということで、リニア開業により影響を受けると考えられる業種ということでございます。こちらを見ますと、プラスの影響が大きいと回答したところにつきましては、「建設業」の33.1%、「不動産業」37.6%、「飲食・宿泊業」28.9%といったところが多くございます。

また「影響は受けない」、あるいは「プラスでない影響がある」といったところでは、「農林水産業」、「運輸業」、「卸売・小売業」といったところがそういった割合が高くなっております。

10ページへいきまして、リニア開業のプラスの影響を市の発展に結びつけるために積極的に取り組みを進めるべき分野ということですが、最も多かったのが「観光」の64.5%、次いで、「商業・サービス業」、「地場産品」3割といった結果となっております。

業種別の11ページのところにつきましては割愛させていただきますが、この見方ですけれども、

グレーの棒グラフは全平均の数字になっています。これに比べて、各業種が高いか低いかというような今ここでは整理をさせていただいています。例えば建設業でいけば、「住宅・住まい方」というのが、グレーのところと比べて40.2%と高くなっていますので、そういったところにちょっと感度があるのかなといった整理をさせていただきます。

12ページですが、リニア開業により中津川市に期待する施設・機能といったところですが、この回答で多かったのが、「先進医療機関」が39%、「企業の生産機能（工場）」32.7%、「レジャー・観光施設」36%、こういった結果が出てございます。

14ページ、リニア開業の効果を最大限活かすために自らが進めるべき取り組みといったところでいきますと、「情報発信・PR」が最も多くて40.7%、「地元資源のブランド化」が29.9%、「来訪者へのサービス向上」が28.9%と、こういった結果が出てございます。

続きまして、16ページ、目指すべき中津川市の将来像ということで、最もあなたの考えに近いものということで、ピンク色の、グラフの一番割合が大きいところを見てみますと、「様々な産業が集積した活力ある地域」という方が、39%の方が最もそれに賛同するといった回答になっています。

「人々が集い、観光・交流が盛んな地域」ということも24.7%ということで高くなっております。

これを業種別に見ますと、建設業、製造業といったところが、今申した「様々な産業が集積した活力ある地域」というところが、その将来像としてあり得るんじゃないかという回答となっております。

企業アンケートの自由回答についてということで、企業アンケートについて自由回答もたくさんいただきました。回収が1,115件ある中で、延べ500件ぐらいの皆様のご意見をいただきました。ここを細かく書いてございますが、今、精査中です。期待することや不安なこと、ご意見、ご提案と多くいただいています。これをしっかり整理して反映していきたいと思っております。

先ほど申し上げましたが、市民アンケートの自由回答についても同様の傾向がありまして、皆様には関心があったかということでたくさんの方の自由回答もいただいております。これらも中身をしっかりと精査していろいろ反映していきたいと考えております。

以上となります。

【司会】 ありがとうございます。

ただいまのアンケート調査の集計結果につきまして、何かご質問がございましたら。

【委員長】 私が聞いていてもいけないのかもしれませんが、しかし、この資料をじっくり見せていただいたのが今日初めてなものですから、ちょっとお聞きしたいんです。今の企業に対するアンケートの12ページですけれども、先進医療機関への期待が非常に高くなっておりますね。調査をやられた方は先進医療機関の内容とをどういうふうに捉えておられるのか、ちょっと聞いておきたいんです。市民アンケートのほうでも、福祉、医療サービスに対する期待というのがかなり高くなっているんですけど、それとは違うんでしょうか。

実は、先日、県の企画で、恵那でリニア新幹線絡みのシンポジウムが開かれました。そこで基調講演をしていただきましたのが、九州大学の名誉教授の樗木先生から話をしてもらったんですが、この樗木先生の話の中に、九州新幹線のどこの駅だったかな、鳥栖駅だったかどこかの駅に重粒子医療センターだったかな、先端的医療機関の話があるんです。そういうようなものを意識してこれを聞かれたのか、それとも、いわゆる地域の人々がかかる医療機関の中で、先進的な医療技術もやってほしいという意味で聞かれたのか、そこらがどう読むかが大変問題になってくると思うんですが、アンケートを企画したほうではどう解釈しておられるか、ちょっとお聞きしておきたいんです。

【事務局】 こちらにつきましては、樗木先生のおっしゃったように、そういう分けをしているわけではなくて、いわゆる先進的な医療機関ということで、両方とも捉えられるような言葉にはなって

おるんですけども、そういったところでございます。

【委員長】 わかりました。そうですね。ちょっと苦しいですね。これの解釈は大変難しいので。いいです。これからちょっと検討していきましょう。

【事務局】 他、よろしかったでしょうか。

それでは、次に、報告3のほうに移らせていただきます。「各委員会での検討状況について」、それぞれ委員会の代表の方からご報告をお願いいたしたいと思っております。なお、ご質問につきましては、各委員会の報告が全部終わってからまとめて行わせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、初めに、策定委員会幹事会の状況につきまして、幹事長である島崎委員から報告をお願いいたします。

【委員等】 幹事長を務めさせていただきました島崎です。

私のほうから、1つ目の策定委員会幹事会の検討状況ということにつきまして、報告3-1で説明をさせていただきます。座らせていただきます。よろしくお願ひします。

まず、これは、ビジョンの策定につきまして、その考え方、方向性につきましてご議論をいただきました。幹事の皆さん、23人お見えですが、産業部会とまちづくり部会、この2つの部会に分かれていただきまして、それぞれご意見をいただきました。それを整理させていただいたものでございますので、あらかじめよろしくお願ひします。

まず、分野につきまして、12の分野に分けさせていただきます。それぞれご議論いただきました。そのご意見をいただいたものをそれぞれ産業部会の意見とまちづくり部会の意見というふうに挙げさせていただいております。それを整理いたしまして、方向性ということでもまとめさせていただいたのが右側に載せさせていただきます。順次ご報告をさせていただきます。

まず、1ページ目でございますけど、ビジョンの考え方ということで、全体的なところでご議論いただきました。その方向性といたしましては、地域固有の特性を把握しまして、地域ごとにまちづくりを考え、市全体の方向性を示すということと、飛騨や木曾など、周辺地域との連携、協力を検討する。それから、リニアの開業までだけではなくて、15年先、50年先、100年先を見据えたビジョンにしていくということ。それと、豊かな自然とか街道文化とか伝統産業とか、他地域に伝えたい中津川市の良いイメージを示していくということ。それと、先ほどアンケートがありましたけれども、アンケート結果を参考にした検討をしていくということで、ビジョンの考え方についてまとめさせていただきました。

それから、ページをめくっていただきまして2ページ目になりますが、大きく産業に関する分野ということで、1つ目の農業につきましては、農産品の生産から加工・販売までの一貫体制による農業の活性化を図っていくということで、それについては6次産業化とかリニア駅と高速道路の組み合わせなどによる売り場の確保とか、そういうことが必要ではないかということ。それから、週末農業といった観光と組み合わせた取り組みを行うということ。それから、大都市の住民の方のニーズを把握しながら、それを踏まえて就農を促進していくということ。それから、集約化等による効率化を図る。これは耕作放棄地も含めまして、集約化をして効率化を図っていく必要があるということ。それから、2つ目の林業につきましては、これにつきましても、6次産業化などの一貫体制をして林業の活性化を図っていく必要があるということと、観光と組み合わせた取り組みを行っていく必要があるということでもまとめさせていただきました。

それから、工業につきましては、本社とか研究・開発機能などのそういう企業誘致を図っていく必要があるということで、それに向けては人的交流に着目して、当地の興味を持つ企業・機能を把握していく必要があるだろうということでまとめさせていただきました。

それから、4つ目の商業、サービス業につきましては、まちなかの商店の商品の特徴を出して、リニア駅の土産屋との棲み分けをしっかりとっていくということと、和菓子処としての地域特性を活かしていきながら、中心市街地の賑わいを高めていくということ。それから、東濃地域の地盤のよさをPRしながら、土地の安さも活かしながら産業の誘致をおこなっていく。それについては、データセンターなども考えられるだろうということ。

それから、5番目の観光につきましては、中津川市内の観光商品を磨き上げて、首都圏に対してPRして、中津川市の認知度を高めていく。それについては、自然環境そのものを観光資源として活用していくこともありますし、車両基地を観光資源として活用していくこともある。いずれにしても、地域が一体となった組織的な活動の実施が必要だろうということ。それから、中津川市内の今ある観光資源間を回遊できるような仕掛けづくりが必要だろうということ。それから、飛騨、木曾などの周辺地域の観光資源を含めた観光商品を開発し、中津川市の観光の魅力を高めていくということ。そういうことでまとめさせていただきました。

それから、ページをめくっていただきまして、6つ目の地場産品でございますけど、これにつきましては、「日本一」をキーワードとした中津川のブランド力を高めていく必要があるということと、事業者が一体となって取り組む必要があるということで、そういう取り組みをしながら、中津川市しかない商品やサービスを開発してブランド化を図っていく、そういう方向で進む必要があると。

それから、大きなまちづくりに関する分野といたしまして、7つ目ですが、自然環境、これにつきましては、中津川市の豊かな自然を守っていくということで、そのために残すべきもの、守るべきものを明確にしていく。それから日常の自然風景を保全していくということ。それから、中津川市の良いところを壊さない秩序あるまちづくりに取り組んでいく必要があるだろうということ。それから自然を観光資源として活用していく。それについては、首都圏への溪流の売り出しとかウォーキング、ハイキングできる、そういう整備もしていく必要があるだろうということ。

それから、8つ目の歴史文化でございますけど、これは、宿場町間の連携強化、そんなものを強化しながら、歴史文化と観光を組み合わせる情報発信やイベントの実施などに取り組んでいく必要があるだろうということ。それから、地域で頑張っている人、団体を支援いたしまして、地域の資源を掘り起こしていく。それについては、今現在、明治座クラシックコンサートとか、おやじバンドなんか非常に頑張っていると思いますので、そういう団体への支援というのでも考えられるだろうということでございます。

それから、ページをめくっていただきまして、人づくり・人育てという部分につきましては、医療機関の専門学校とか理科室の大学など、そういう教育機関とか研究機関の積極的な誘致を検討していくということ。それから、市内の知的財産、こういうものをしっかりと把握して、共有できる仕組みづくりをつくっていく。そういう取り組みをしながら小中高の教育環境を向上させていくと。

それから、10番目の住宅・住まい方につきましては、単身者ではなくて、家族が住んでいただけるような、そんなまちづくりをしまして、都会の人が中津川市に住みたい、そんなふうに思っただけのような環境を整えていくということと、きれいなまちを目指す。きれいなまちを目指すに当たっては、条例の見直しとか、規制を設けていく必要があると。

それから、11番目の安全安心につきましては、リニア開業までに様々な分野での安心安全対策に努めて、定住促進に結びつけていく必要があるということで、それに向けては、医療、保育、それから若い世代、子育て世代に光を当てた取り組みが必要だということと、医師等の確保による医療の充実もしていく必要があるだろうと。それから、もう一つ、地域の人が自ら関わっていく仕組みづくりの構築を図っていく必要があるということでもまとめさせていただきました。

それから、最後ですが、産業とまちづくりを支える分野ということで、基盤整備でございますけど、ここにつきましては、国道19号、257号、中津川インターチェンジへのアクセス整備など、リニア駅と幹線道路のアクセス利便性を高めていく必要があるということ。それから、観光客を取り込むためのアクセス整備といたしまして、下呂方面への利便性を高めていく必要があるということ。それ

から、リニア駅周辺の自然、これにつきましては、当地の象徴ということで位置付けて取り組んでいく必要があるということ。

以上、12の分野につきまして、その方向性につきましてまとめさせていただきました。以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。

では、続きまして、女性・若者委員会の状況につきまして、委員長であります前田委員からご報告をお願いいたします。

【委員等】 女性・若者委員会の委員長の前田です。座らせてお話しさせていただきます。

女性・若者委員会では、リニアのまちづくりを検討するに当たり、女性と若者の視点で検討を行うために、最初に、未来の若者、子供たちを想像して、こうなっていればいいなという理想のまちをテーマとして出しました。これを実現するために、アイデアについて20名の委員が3つのグループに分かれてワークショップ形式で意見を出しました。

広く女性、若者の意見を集約するために、あらかじめ委員だけではなく、周りの方々にも意見を聞きながら進めたワークショップでは、非常に活発な議論が行われ、まちづくりに関するたくさんのアイデアが出されました。ワークショップで出されたアイデアですが、資料の報告3-2から見ていただきますと、中に、いろいろな内容で書いてございます。ここは割愛させていただきます。

そして、たくさんのアイデアの中で、特に女性と若者としてこだわりは何なのかということが全体の会議で出ましたものですから、12月にもう一度女性・若者委員会を開催して、まとめたものを報告させていただきたいと思っております。

以上です。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、地域委員会及び各地域の協議会の状況につきまして、委員長であります中島委員からご報告をお願いいたします。

【委員等】 報告3-3で報告します。

地域委員会と地域協議会における計画づくりの状況についてということで、10月15日に第2回の地域委員会を開催し計画書をつくりましたので中間報告いたします。第2回の中間報告における主な意見は、地域の抱える問題、取り組むべき課題として、ここに書いてあるような少子高齢化、あるいは道路が狭い、地域の担い手の不足、教育環境の整備、地域コミュニティの希薄化等を挙げました。

それから、地域特性を活かしてめざす将来の地域像として、若者の定住推進、企業誘致による雇用の場の創出、豊富な観光資源を生かした観光振興、地域産業の活性化、地元特産品の販路拡大、地域コミュニティの活性化。

もう一つ、地域づくりのための具体的な取り組みとして、地理的・地形的な優位性を生かした企業や施設の誘致、耕作放棄地、空き家バンクを活用した住宅整備、生活道路などの住環境の整備、市内観光資源の環境整備と連携、木曾、飛騨地方の観光地との連携、中津川市でしか手に入らない特産品の開発、交流促進による地場産品の販路拡大ということで、今後、各地域協議会で取りまとめられた地域づくり計画書の意見を地域委員会で集約し、リニアのまちづくりビジョンに反映していきたいと考えております。

1月にもう一回やりますので、今度、叩き台を出させてもらいますので、よろしく申し上げます。

以上です。

【司会】 ありがとうございます。

ここまでの各委員会の報告につきまして、何かご質問がございましたら。

【副委員長】 ちょっと質問というよりも自問自答と申し上げたほうがよろしいんですが、その前に、アンケート結果の中で、市民の皆さん方の思いというのが非常にいろいろ多面的に出されておるということに対して敬意を払いたいというふうに思います。

ただ、市民アンケートの中にあります、よく私でも使っちゃう言葉なんですけど、20ページに、「中津川市の自然、景観等に配慮しながら地域の活性化に必要な開発を行っていく」と。これは何ですか。感覚的に、情緒的には極めてわかりやすいというか、わかっちゃうんですが、山もあり川もあるので、自然豊かだということをお我々も外へ行ったときに言うんですが、何を配慮するんやということ。それから地域の活性化に必要な開発。地域に必要な開発とは何ぞやなということをお、皆さんと一緒に私も、観念的には、情緒的にはこういう言葉を非常に使いやすんですけど、何なのかなということをお思うわけです。

もう一点は、22ページのリニア駅広場の交通拠点として必要な開発に留め云々と、こういうことが出ておりますが、この辺もどういう方向でみんなでお考えていくのかと。駅ができたなら何ができるかということをお、高層ビルができてどうのこうのなんていうことはあり得んわけでおして、現実を直視しながら、市民の皆さんにどう話をして、どう啓蒙していくべきかということもこの中で考えていけたらいいなというふうに思うわけです。

それから、さっき出ておりました委員会の報告の中で、この地域の住宅地の、これは3ページですか、産業に関する分野の問題で、土地が安いということをお訴えておりますが、東京や名古屋と比べれば安いに決まっておるわけでおして、現実を直視したときに、この中津川というのは高いんですね。土岐、瑞浪よりも高いんですね。こういうことも念頭に、一々喧伝する必要はありますが、現実を見据えておく必要もあるよと。ですから、住宅が、どっちかというとお土岐、瑞浪方面に、中津川より3割ぐらい安いと、同じような形状のということをおちょっと以前聞いた記憶があるものでおして、これはリニアのビジョンとは違いますが、だけど影響してくる問題もあると、こういうふうに私は思うわけです。

それから、6次産業化というのは学者さんが言うのはいいけれど、こういう市民と皆さんと一緒に考えていくときに、6次産業というのは何ぞやと。こういう言葉だけ踊るようなことはコンサルタント会社と評論家に任せておけばいいんじゃないかと、こういうふうに思うわけです。ちょっときついことを言いましたが、わけがわからんかもしれませんが、本当に地についた形で議論していく必要があると、こういうふうに思います。

以上。

【司会】 ありがとうございます。

他、よろしかったでしょうか。

それでは、これより議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、竹内委員長のほうにお願いを申し上げますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】 それでは、議事に入らせていただきます。

今までの報告を踏まえながら、この議事について議論していただいたらいいと思うんですけども、議事は1、2、3と3つございまして、1つは、この委員会のビジョンアウトプットの構成案について、取りまとめのことを考えなきゃいけない、大変なことでおして。それから2番目が今後の進め方について、それから3番目が整備イメージ(案)の叩き台、それについて皆さんのご議論をいただきたいということでおして。

それでは、順番に進めてまいります。

最初に、議事1「ビジョンアウトプットの構成案について」、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 リニア推進課の渡辺でございます。よろしくお願いいたします。着座にてご説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料1をお願いいたします。

これは、2月に予定をしております第4回の策定委員会におきまして、ビジョンの素案をご提示申し上げる予定でございますけれども、市民の皆さんにとってわかりやすいビジョンとしていくために、リニアを活かしたまちづくりの理念や施策の方向、具体的な活用方策等をどのようにパッケージしていくかということが非常に重要でございます。ビジョンをどのようなシナリオで仕立てていくか、ここでお諮りをさせていただいた上で作業に着手したいというふうに考えておるところでございます。

7つの章立てでまとめてまいりたいと考えておりまして、序章から第3章までを前段として位置づけまして、3-1では、時間距離短縮、人流といった直接的な効果を整理しまして、そして3-2から3-4では、報告1-2の2ページでお示ししました名古屋大都市圏、それから首都圏、大阪圏、そういったところと向き合う2つの中津川市の位置付け、そういったものをその視点でもってブレークダウンして、どのような変化が考えられるかを整理して、そして3-5では、沿線上で唯一となる工場を含む車両基地、これが設置される中津川市ということで、その波及効果をできるだけ多く広く拾い上げていきたいというふうに考えておるところでございます。

2ページをお願いいたします。

この第4章がビジョンの中核となる部分でございます、中津川市として目指すまちづくりの方向をこの章で整理する考えでございます。

4-1では基本方針を、4-2では「中津川市の立ち位置を踏まえた戦略」、ここでは縦糸としてございます。それから、もう一つの横糸としまして、「交流促進と定住促進」、こういった2つの切り口で整理をして、4-3では、「戦略を効果的に進めるための各地域のまちづくりの方向」として、各地域の考え方を盛り込んでいきたいというふうに考えておるところでございます。

そして、4-4では、岐阜県全域や木曽、三河地域等、周辺圏域の一体的発展に寄与する駅であること、及びその広域的活用のあり方をしっかりと位置づけてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

3ページをお願いいたします。

第5章では、市民が丸一となって取り組むべき具体的な方策について、5-1で①分野別、②地域別、③役割（立場）別に整理いたしまして、地域別の取り組みにつきましては、各地域で現在お取りまとめをいただいております具体方策を盛り込むことといたしまして、それを「地域の重点プロジェクト」というような形で括ることができれば、地域の皆様の関心も高まるのではないかとというふうに考えておるところでございます。

そして、5-2で、「重点プロジェクト」をいくつか位置付けたいと考えております。開業までの15年間、あるいは開業以降も「みんなで頑張っていこう」と市民の皆さんに思っただけのような、そういった具体的な取り組みの促進に繋がるようなものが位置付けられればいなというふうに考えておるところでございます。

次に、第6章でございます。駅や車両基地の詳細位置が決定するのはまだ先でございますけれども、位置等に縛られない形で、広域アクセス、新駅周辺整備の方向、駅前整備イメージ、車両基地周辺イメージというのを機能面から整理したいと考えておるところでございます。

6-3では、少し望遠レンズで駅前のみを見るようなイメージを考えております。6-2では、もう少し広角的にぐっと引いてきたようなイメージ、広い範囲で捉えて、どんな機能配置がふさわしいのかと、そういった在り方をゾーニング的にイメージできたらいいなというふうに考えておるところでございます。詳細位置が決定しました暁には、速やかに具体的な議論ができるような形で整理をしていきたいという考えでございます。

それから、最後の7章では、「今後の取り組み」として、開業後まで含めた形で大まかな工程とい

うものを整理していきたいと考えております。その中で、具体的なアクションプラン、整備計画、そういったものがどの時期までにタイムリミットがあるというようなことも考えていきたいというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

【委員長】 というような説明でございますが、この点について、何かご質問あるいはご意見ございませんか。

【副委員長】 4章のまとめ方なんですけれども、戦略1（縦糸）、戦略2（横糸）と、こういう表現になっているんですが、これはちょっと中身を見てみますと、大分レベルが違うというか、トーンが違うような内容になっていますので、そのあたり、例えば、戦略1のほうが少し上位的なそういう位置付けで、戦略2のほうがそれを具体化している、そんなようなイメージがしますので、例えば、戦略1のほうを目標、戦略2のほうを戦略というか、そういうような整理の仕方のほうがじっくりくるんじゃないかなというふうにはちょっと思っております。

あるいは、方針のほうから含めて、理念、目標、方策というか、こういう3段階で落としてくるとか、方策のところは戦略という言葉になっても構わないかもしれませんが、戦略1と2が、ちょっとやっぱり横並びではないんじゃないかなという気がしておりますので、そのあたりのところを取りまとめに当たって少しご検討いただければと思います。

【委員長】 ありがとうございます。

これは、お聞きしておけばいいですかね。今度検討していくわけですから、意見として。あるいは、何か反論されますか。

【事務局】 ちょっとややもやとしたところもございましたので、ありがとうございます。

【委員長】 他にございませんか。

この議事に先立って、報告ということで、幹事会からの報告、幹事会はいとしても、女性・若者委員会からの報告とか、地域委員会からの報告をいただいたわけです。両方とも、まだこれから議論を詰めますからということで中間報告ではあったわけですけど、この方たちの報告とかそういうのが、取りまとめの中ではどこにどう反映されていくのかという点をもうちょっと説明いただいたほうがいいのではないかと思いますけど。

【事務局】 お答え申し上げます。

まず、地域委員会のほうでお取りまとめいただいておりますところにつきましては、ここの章立てでいきますと、第4章の4-3でございます。ここでまず、地域としてどんな形で地域を盛り上げていこうかというところの大きな方針を、地域ごとにここでしっかり位置付けてまいります。それから、第5章の5-1の②と書いてございます、地域別の取り組みというところですね。各15地域でどのような形でやっていくのかと。具体的方策を書きながら、それから、その地域がどんなまちづくり、隣の地域と連携したり、あるいは、下呂とか三河とか恵那のほうとか、それぞれの地域の特性でどこと連携していくのかとか、そういったところも1つ仲間をゾーンングというような形で囲えるような形で考えてみたり、そういったことを第5章の5-1の②のところを考えていきたいと思っております。そして、そこで重点的プロジェクト、地域としてこんな形で、15年間、それから開業時を見据えてやっていきたいというところはここに位置付けていきたいと考えております。

それから、女性・若者委員会のほうの考えにつきましては、理念的なものもしっかりこれから議論していただくということになっておりますので、そういったものは4-1の基本方針のところにも入

ってくると思いますし、4 - 2のまちづくりの戦略、こういったところにも出てくるかと思います。

それから、具体的な戦略の2のところでございますけれども、交流促進、定住促進、このあたりはある程度丸めて、括ってくるという形になると思いますけれども、そういった形で盛り込んでいくことになると思います。

それから、女性・若者委員会でいろんな分野ごとにまとめていただいております項目につきましては、この5 - 1、それから5 - 3、どんな役割（立場）でどんな分野に取り組んでいくかと、そんなところを具体的に盛り込んでいきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

【委員長】 という説明でございますが、この点について、特にご意見、あるいはご提案ございませんか。よろしいでしょうか。

【副委員長】 2ページの4章の4 - 3で、戦略を効果的に進めるための各地域のまちづくりの方向ということで、15地域から地域が目指すメイン方向をキャッチフレーズにというふうに、こういう提案になっておりますが、15地域を分けてそれぞれのキャッチフレーズをつくるということが、いわゆる言葉としては非常にいいんですけども、15地域を細かく割ったときに、それぞれの方向をいわゆる自分のところの地域はこうしたいというのを各地域でほんとうにできるものなんでしょうか。そこの部分がちょっと疑問に感じるんですが。まとめることができれば最高なんですが、隣の地域とうちはこんなに違いますよということが、例えば、私も郡部のほうですので、飛び地になっていきますので、あえてつくろうと思えばつくれると思うんですけど、中津川のまちの中心市街地の中で、右と左と、南と北とこう違うよというようなことは本当に可能かどうかを含めて、キャッチフレーズのあり方とか表現の仕方の問題ですけども、ちょっと一度検討いただければと思います。

【委員長】 検討いただくということでよろしいですか。また、各地域で出された議論をまとめるということで、全体の整合性が保たれるかどうかということも問題だと思いますので、最後のところでは、またご議論いただかなければいけないところもあろうかと思います。

他に何かご意見、ございませんでしょうか。

それじゃ、私からも1つちょっと意見というか、一言申し上げておきたいんですけど、幹事会のほうの報告ということで、分野別の取り組みということで12の分野に分けてお話をいただいたわけですね。それが第5章の5 - 1の①に入るということになるんでしょうけれども、この12の分野に分けて議論されたということは非常に論理的で厳密でいいんですけども、分野別に分けてしまって議論したためにちょっと視野が逆に狭まって、全体の政策としての体系化がしにくいんじゃないかと思うんですね。

例えば、観光というのがありますけれども、今度の場合、他の分野のところみんな共通に関連してくる、そういうことを指摘しておられる分野もあります。例えば林業のところですか、観光との連携が大事だとかと、観光の連携を指摘しておられますけれども、私は、各分野を繋ぐ横糸として観光というのが非常に重要だと思います。しかも、地場産品をあわせてつくっていく観光というのが、これからの観光で非常に大事だと思うんですね。地場産品を地産地消の形でスタートさせていく、それが観光で、それが地場産品を大きく育てるためのきっかけになり得ると思っております。ということになると、いろんな分野のところを全部まとめた議論というのも重要なんですね。

これは次の議題で話すべきだったのかもしれないんですが、どうやってまとめていくのか、幹事会で分野別に議論されていて、それをまとめる作業は幹事会のほうでやられるのか、そういうところあたりは、全部ビジョン取りまとめを担当するコンサルタントに任せちゃうのか、このあたりのところはどんな予定なんでしょうか。

【事務局】 お答え申し上げます。

私どもも、このあたりにつきましては、非常にバランス的に並列ではないのかなど。やはり産業を繋ぐものというのは、要になるところというのがあると思います。このあたりの表現をしていく中で、かなり重複してくるところもございます。今、委員長のほうからご指摘のございましたようなところにつきましては検討していきたいと思っておりますし、場合によっては、いろんな形で、幹事会だけでなく、策定委員会の皆様方に事前に書面等でお伺いを立てなければならないようなちょっと修正を加える必要もあるかなというふうに考えているところでございます。

【委員長】 この件について、幹事会のほう、島崎委員のほう、何かご発言はございますか。

【委員等】 確かに、今、竹内委員長が言われたように、例えば林業、農業、そういうところについても、どうしても観光というところが出てきます。委員長が言われるとおりでございまして、今後、議論を進めていく中では、もう少し大きい枠にしていく必要が出てくるだろうというふうには考えていますので、その辺も含めて検討していきたいと思えます。

【委員長】 ありがとうございます。

今の私が言いましたことは、ひょっとすると議題2のほうで言うべきだったかもしれませんが、適切にお答えをいただきましてありがとうございます。

他にございませんでしょうか。

それでは、このビジョンアウトプットの構成案につきましては、今、ご指摘いただきました検討事項は事務局のほうで、これは原案でございますので、検討して、あるいは修正を加えて構成案をつくっていくということにしたいと思えますが、それでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、これでご承認をいただいたことにいたします。

続きまして、議題2「今後の進め方について」、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それではご説明を申し上げます。

資料2をお願いいたします。

これは策定スケジュールでございますけれども、前回のご説明から大きな変更はございませんけれども、一部つけ加えたもの等がございますので説明をさせていただきます。地域委員会の各種地域協議会という、ちょうど真ん中の欄のところでございます。中段あたりになりますけれども、今月末に、各地域から地域づくりの計画書というものをご提出いただくことになっております。それを事務局のほうで整理いたしまして、何とか年内に作業しましてフィードバックをさせていただきたいと。それから、個別調整をさせていただいて、素案に盛り込む作業を進めてまいりたいと考えております。各地域でいろんな個性のあるまとめ方をさせていただいておりますので、必要がある部分については整合をとるといような、いわゆる表現的などころになると思えますけれども、そういった作業をさせていただきたいと思っております。

それから、またその右の隣になりますけれども、12月の第5回の女性・若者委員会、これを12月3日の日に予定してございます。先ほど、前田委員長の方からもお話がございましたように、委員会としてのこだわりと、そういったところをご提言を取りまとめさせていただくということで、各地域の計画書同様、素案に盛り込む作業を、それをいただいてから進めてまいりたいと思っております。

それから、今の議題と関連がございますけれども、1月下旬から2月上旬にかけて幹事会、地域委員会、女性・若者委員会にて素案の叩き台をご提示して、2月18日の第4回の策定委員会にてお諮

りをさせていただき予定でございましたけれども、今のアウトプット案について、若干私どものほうでしっかり議論して、幹事会のほうにお開きいただくか、書面等でご確認いただくか等も含めてしっかりと検討してまいりたいと考えております。

それから、こうした形で第4回の策定委員会にてご提示申し上げた後のこととなりますけれども、さらに各委員会からご意見をいただきながら修正を加えてまいりまして、5月に最終案をご提示申し上げて、これは前回のご説明にはなかったことでございますけれども、パブリックコメント、そういったものを実施しながらやっていきたいと考えております。そこでのご意見を踏まえて最終調整を行って、8月には完成できるよう作業を進めてまいりたいと考えております。なお、岐阜県や恵那市の委員会の工程も睨みながら、そのあたりのことは調整をしてみたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

【委員長】 どうもありがとうございました。

このスケジュール、若干変更もあるということでございますが、この点、何かご質問はございませんか。

市民アンケート、企業アンケートの分析のほうのスケジュールはこの中にどういうふうに入っておりますか。

【事務局】 今、単純集計に近い形になっておりますので、ここの中でどのような方向でこの意見を盛り込んでいくかと、そういう部分と、それから、その中でどういう方向かという部分をしっかり抽出しまして、このあたりも、できれば年内か来年の初めぐらいには幹事会等でご提示する必要があるかなと今思っておるところでございます。

【委員長】 ありがとうございます。

スケジュールに関してではないんですが、そういうことで、割にアンケートの分析も、急いでというか、早急に進められるということなので、これに関して、何かコメントのある方、いらっしゃいませんか、こういうことも分析してほしいというような。

三井委員、これは適宜コンタクトしていただきたいんですが、何かちょっとご発言はありませんか。

【委員等】 アンケートに関しましては、私が突然前回いろいろ意見を申し上げた中で、大変スケジュールがタイトな中でいろいろ工夫していただきましてありがとうございました。今回、まだ時間がないということで、簡単なクロス集計等という結果が今あると思うんですけども、さらに、それぞれの市民の方の考え方の中でのクロス集計をしたりだとか、企業の意見も、どちらかという期待が大きい企業と期待の度合いが小さい企業とではどういった違いがあるのかといったような部分の把握等を多分これからされると思いますので、細かいことがたくさんあると思いますので、それに関してはまた個別に意見させていただければと思います。

もう一点、今回、せっかく地域委員会のほう、女性・若者委員会のほうがいろいろな意見を出していただいている、ビジョンを策定していく上で、多分、実は、今回出されているアイデアの中には、現在実際に取り組んでいる事業というものもあると思うんですね。そういったものを、まず、この部分は既に着手していて、取り組んでいて、ある程度の成果がある。つまり、リニアが実際に来る前に何らかの形で取り組みが始められる事業と、もう一つは、更に試験的、実験的に、もしかするとこの間に進めていくべき事業というのも出てくると思いますので、そのあたりのことを計画的に考える上で、3年、5年という少し短いほうのビジョンでも、効果や集客率等を検討していくという部分を織り込めるといいのかなと思いました。

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、このスケジュールの件につきましては、今、いろいろとスケジュールに乗せてアドバイス等をお願いもできましたので、これで進めてまいりたいと思いますが、よろしゅうございますか。
(「異議なし」の声あり)

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、この議事2の「今後の進め方について」も、これでご了承いただいたことにいたします。それでは、次に参ります。今日の一番中心議題といいますか、議事3「整備イメージ(案)叩き台(地元協議会用資料)について」、これを事務局からまず説明していただきます。お願いします。

【事務局】 それでは、ご説明申し上げます。

資料3をお願いいたします。

この資料は、「駅周辺のアクセス」及び「駅前機能整備」に関しまして、来年2月から3月頃、岐阜県のほう、「岐阜県リニア活用戦略(一次案)」ということでお取りまとめをされるというふうに向っておるところでございます。そうしたところに、地元中津川市の意見というものを反映していただきたいと、そういった趣旨で、そのためには駅の設置が計画されております坂本地区、そういったところの地元の皆様としっかり協議をさせていただくということで、そのための叩き台として整理したものでございます。ちょっとくどい説明でありますけれども、あくまでこれは地域協議のための叩き台という位置づけでございまして、決定したとかそういったものではございませんので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

イメージ案につきましては、共通的に新駅の位置を「美乃坂本駅併設もしくはできるだけ近接」としました県同盟会の要望、その考え方に基づいて整理したものでございます。まだ車両基地の問題とか新駅の位置、そういったものは明らかでございせんけれども、こういった条件の中で仮定を置いて、そこで検討していくという考えでございまして。

これは、去る9月18日に、坂本地区リニア中央新幹線対策協議会に私どもがお邪魔いたしましてお示しをさせていただいて、これを叩き台に地元のお考えというものをまとめていただければということをお願いをしておるところでございます。

1枚撥ねていただきまして、「新駅想定エリアにおける現状道路の課題」というものをご覧いただきたいと思ひます。凡例をちょっと漏らしてしまひまして申し訳ございせん。緑色の大きな太いものが中央自動車道でございまして、オレンジ色が国道でございまして、19号、257号だけでございましてけれども。それから黄色は県道でございまして。それからグレーというのは2車線道路でございまして。これだけしか2車線道路がないのかということもございまして。それから、点線が1.5車線ということで、県道でも1.5車線のところがあるというようなことで、印刷がちょっと見づらくて申し訳ございせん、そういったものでございまして。それから、課題ということで、黒丸で地図に落としてございまして。

この図で何が申し上げたいかと一言で言ひますと、坂本地区、特に美乃坂本駅周辺の道路というのは極めて脆弱であるということもございまして、美乃坂本駅から中津川インター、国道19号、国道257号に快適にアクセスできるルートというのは限られております。ほとんどないというような状況でございまして。また、木曾川や恵那市境に近いエリアには農道規格の2車線道路があるんですが、歩道整備等が遅れておひまして、安全確保そういったもので非常に遅れておると。多くの課題があるエリアでございまして。

それから、JR中央線上に星印がつけてございましてけれども、これは、JR中央本線を立体で交差できている箇所でございます。駅の周辺に4カ所ございましてけれども、2車線道路でクロスしてできているのは恵那市境の1カ所と、美乃坂本駅東側のところに1カ所あるだけでございまして。あとのところはほとんど車が1台すれ違ひのも大変だというような道路になっておるところでございまして。

こうした状況を踏まえて、新駅へのアクセスをどう確保すべきかというものを整理したものが、1枚撥ねていただいた「新駅アクセス道路イメージ案叩き台」というポンチ絵でございます。そちらをお願いいたします。まず、赤の帯でございますけれども、これが、新駅と中央自動車道中津川インターチェンジ及び国道19号を最短距離で結びアクセス道路ということで、私どもはこの整備が最も重要というふうに考えておるところでございます。この道路につきましては、市境から恵那方向に延伸することが効果的というふうに考えておりますけれども、この点につきましては、恵那市との調整が大切だというふうに考えておるところでございます。

次に、緑の帯でございますが、これは新駅と国道257号とを結ぶアクセス道路でございまして、濃飛横断自動車道で整備するというようなイメージをしておるところでございます。当市としましては、この道路を阿木方向へ南伸する形で現在構想段階でございまして、**「三河東美濃連絡道路」**ということで、こういうものが位置づけされればありがたいというふうに考えておるところでございます。この点につきましては、岐阜県のほうで中心にご検討いただいておりますので、私どももしっかりいろいろとご相談をさせていただきたいと、そんなふうに思っておるところでございます。

次に、水色の楕円の帯でございますけれども、これは、今申し上げましたように、非常に脆弱な生活道路が入り組んだ形になってございます。そうしたところにいろんな駅へ来られる方、それからインターであるとか、下呂方向、そういったところに進んでいかれる方が流入しないように、しっかり現道改良などをしながら環状の道路網というものを整備するイメージでございます。

それから、これは中津川市街地との関係というものをあまり整理はしてございませぬけれども、中津川の市街地から坂本北部を通過して直接アクセスできるような、国道19号ルートでない、またそういったところの考え方も一応イメージをしておるものでございます。

それから、最後に、赤色の一点鎖線で囲んだ箇所が2カ所ございます。これは中津川インター付近と深沢交差点でございます。中津川インター付近につきましては、JR中央本線、それから中央自動車道への流入箇所、それから国道257から19号へ流入、流出するところの非常に動線が交差しておると、非常に道路構造が悪いところでございます。

それから、深沢交差点④―2のほうでございますけれども、ここは、現在の県道、それから2車線の市道がこの近辺で集中してここに集まってくる形になっております。非常に朝夕の渋滞が激しいところでございます。それから、中央自動車道とほとんど空間がないということで、交差点改良とかそういったところも非常に難しいところでございますけれども、ここを何とか直すことができればいろんな形で流れがよくなるのではないかなというような考えでございます。

道路の関係は以上でございまして、もう一枚撥ねていただきまして、「リニア新駅の駅前機能整備のイメージ案叩き台」というポンチ絵のほうをお願いいたします。

この図は、リニア新駅の駅前機能整備のイメージ案でございます。新駅は交通の結節点としての機能をできるだけコンパクトに整備し、恵那や中津川を中心市街地と競合するような駅前ではない方向で組み立てておるものでございます。コンパクトに必要な機能を配置していきたいという考え方でございます。

右枠に細かな説明をつけさせていただいておりますけれども、これを一つ一つ説明しますと時間が足りませんので、要するに、駅前をどうしたいかという部分につきましては、「駅前」という大きな見出しがあるところのポツの1つ目から3つ目まででございます。基本的には、首都圏等から訪れた人たちが癒されるような自然や景観と両立した「癒しの非日常空間」、そういったものを彷彿させるような駅前、首都圏のいわゆる八王子であるとか相模原とか、そういったところのビルが乱立しておるような駅前ではいかんだろうという考え方でございます。

それから、岐阜県は森や水の国というふうに言われております。そういった岐阜県のイメージ、それから木曾、東三河、そういったところも合わせた、この圏域を彷彿させる自然が豊かな駅前、そういったイメージがしっかりできるものにしていくべきだろうと思っております。

それから、中津川のシンボルであります恵那山が東の方向に見えますので、そういった眺望を損な

わない田舎の本当に景観の豊かな、お客様をそういった景観でお迎えできるような、そういった駅前にしていくことが大事だろうと。特に、東側をそういったお客様がご利用になられるメインの駅前としていくのが良いのではないかとという考え方でございます。

図の中に、黄緑色で④駅前緑地というふうに書いてございます。通常、こういったエリアというのは、交通広場と一体的に駅前公園というものが整備されておりますけれども、公園というよりも、例えば、今、美乃坂本駅周辺というのは、水田があったり、川が流れておったり、竹林があったりというようなところでございます。多少手は加えないといけないと思っておりますけれども、そういったものをそのままの形で保全していった、都市住民と地域住民との交流空間にしていくというようなアイデアも面白いんじゃないかなと、これは1つの私ども事務レベルのアイデアでございましてけれども、そんな他にはないようなそういった思い切ったことをやっていく必要があるのかなというようなところは考えておるところでございます。

メイン広場の側で在来線駅と新駅とを連絡通路で結ぶ形にしておりますけれども、出来る限り短い距離で、昇り降りは最小限に留めることが大切だというふうに考えております。連絡通路から観光バス、それからいろんなホテルからの、下呂等のホテルからの送迎バス、そういったものの発着場にダイレクトにアクセスできるようにすることや、観光案内、飲食、物産、県やこの圏域のPR、そういった機能を持つサービス施設、そういったものを併設していくことが効果的ではないかというふうに考えておるところでございます。

それから、その反対側になりますけれども、これでいきますと上の側になります⑤立体駐車場というふうに書いてございますけれども、こちらは、主に市内や県内、それから周辺圏域の皆さんが自家用車でアクセスされる場合に対応するような広場にしていきたいと。公共交通中心のメイン広場と役割分担を図っていくことが大事だろうと考えております。駐車場につきましては、景観でありますとか、面積、それから雨や雪、そういった天候の問題、それから移動距離、それからセキュリティ、しばらく車を置いておいて、ガラスが割られたりとかそういうことのないような、そんな形を考えると、整備費用はかかりますけれども、立体で整備するのが理想的ではないかというふうに考えておるところでございます。それから、あと、送迎用の自家用車の待機スペース、いわゆるキス・アンド・ライド、そういったところもそちらの側につくりたいなど。それから、レンタカー事業所、車はメインの方向に回していただくことが大事かと思っておりますけれども、そういったところを配置する必要があるとか、それから民間の方に月決め駐車場、そういったものも考えられるのではないかと考えておるところです。

この両側の広場を高架下でしっかり道路で繋ぎまして、公共交通の分離というのはしっかり図りたいと思っておりますけれども、一体利用というところもしっかり考えていけるような、相反するところはありますけれども、そういう広場に仕立てていければいいなというふうに考えてございます。

今、これにつきまして、坂本地域のほうで具体的な検討、これでどうかというお話をさせていただいておりますので、そういったご意見をなるべく今月中ぐらいある程度いただきたいということで協議をしておるところでございます。そうしたものをまとめまして、岐阜県のほうには、こんなことを考えておるといような形でご説明を申し上げていきたいと考えておるところでございます。

長くなりましたけれども、以上でございます。

【委員長】 ありがとうございます。

いかがですか、皆さん。これはなかなか難しい作業でして、まだ駅位置、それから線路の位置も決まっていない状況で、いわばJR東海側と駆け引きをしているわけですね。こういうふうにしてほしいというイメージをまずぶつける必要があるだろう。それと合わせて、地元の方たちに、変わるかもしれないよ、変わるかもしれないけど、こういう案をぶつけることについてご了承いただきたいというか、完全にこれでいいなんて、そんな不安定な状況で言えるわけではないんですが、ご同意をいただきたいということの地元説明用の資料を作ってみたということでございます。

いろいろとご意見だとかご質問があろうかと思えます。どなたからでも結構でございます。いかがでしょうか。

【委員等】 説明いただきました資料の最後から2つ目でございますけれども、地元の協議用の資料ということでございますけれども、叩き台ということでございます。先ほど、委員長さんからもありましたように、新駅の位置等々もまだ決まっていない中で、今後変わり得ますよということは前提にということで資料をお作りになったということではございますが、地元におろす以上、何らかの今後縛りがかかってくるというふうに思っております。

そういった中で、新駅が位置が決まらないだとか、それから、広域的な幹線道路についても、今後どの位置に入ってくるかもわからないような部分においてなんですけど、19号の関係でちょっと申し上げると、深沢交差点とか中津川のインター付近についての交差点改良ということで、すごくそこだけが特定されているような表現になっておりますので、もう少し全体のトーンと合わせるような形でお考えをいただければなというふうに考えております。

と言いますのは、先ほど申し上げた新幹線による交通需要の上乗せの部分だとか、それから全体としての交通ネットワークというものをある程度交通需要予測のシミュレーションなんかをした上で、そういった部分の交差点改良が必要だとかいう部分がおそらく浮かび上がってくることになるかと思えますので、今の段階ではまだ何も決まっていないということでありまして、少し表現のほうを考えていただければなというふうに思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

【委員長】 お答えになりますか。

【事務局】 これは、1の道路とか、2の道路、そういったものができてくれば、そういったものでいろいろな分散もするというふうに考えられますし、今お話があったように、いろんな需要の関係の中で、そういったところというのは総合的に考えるべきだというふうに考えておりますので、今、課題として、ここが今の状態だと非常に悪いなど。例えば、1の道路がなければ何とかならないぞ、難しいなというような程度の考えでございますので、そのあたり、総合的にしっかり考えてまいりたいと思っております。

【委員長】 これは、右下に④ということで、道路構造の改良ということで、位置がこのあたりということが書いてあるだけでございますが、道路構造の改良等ということになりますかね。表現方法については、後でご調整いただくことにしてよろしいですね。そういうことでよろしく願います。他にございませんか。いかがでしょう。

【副委員長】 ちょっと戻っちゃうようなことで申し訳ないんですが、まちづくりという言葉が度々出てまいります。ここにいらっしゃる皆さん方と、まちづくりとはどこのまちなのか——自分たちの住む近辺、周辺なのか、中津川市全体のまちというか——ということを念頭に入れて考えていく必要があるだろうというふうに思います。

もう一つ、観光とか何とかかんとか言いますが、観光とは何かということも、一々定義づける必要はないかもしれませんが、商工会議所でバスツアーというのを6回開催、まだ継続中ですが、やっております。恵那の商工会議所はこれを見て、複数回おやりになられたようですが、観光という視点からまいりますと、例えば、今日、観光協会長もおられますが、栗拾いをするということの企画が入ると、いっぱい人が参加されます。そば打ち道場という、いっぱい来ます。見るだけだとあまり来ません。こんなようなことも考えていくと、これからの観光というのはどういうものかなということも念頭に置く。

それから、道路アクセスという、今、多治見の所長からお話がありましたが、道路は誰のものか、

何のためにその道をつくるのかということですが、やっぱり住んでおる人たちの主張も大切にしなければいけません、全体ということを考えていったときの道路づくりはどうあるべきかと、こういうことを私は最近、全体を見るということで物事を進めていかないと、地域住民の思いだけではいけないと。

もう一点は、今、道路の太い線が出ましたが、太くすると叱られたり、細くすると叱られちゃうと。今日は野原初代所長がおられますので、この辺の微妙な問題がございます。恵那市の方がおいですが、恵那の地図にはかなり細い線が入っておるのを見受けたことがありますので、この辺の苦しさということ。すなわち計画発表は来年の秋しかないわけですね。それから、工事認可申請をするのは再来年の秋なんです。その辺のところで、実際としては苦しいところがあるんじゃないのかなということもご理解いただく必要があるだろうと。それで、恵那との連携をいつの時期から進めていくかということもぜひ考えていただきたいなと。

今朝、日経新聞をご覧になられた方もたくさんおいででしょうが、私、本当にこれを読んでおりました嬉しくなっちゃったんですが、最後へ行ったらちょっと残念だなと思ったんですが、この日経新聞の記事によりますと、東海さんという方が6時に家を出て、7時発の名古屋行きに乗ったと。7時半ごろ中津川駅に着いて、取引先の方が迎えに来てゴルフ場に向かったと。3時にゴルフが終わって風呂に入ったと。4時発のリニアに乗って名古屋へ行ったと。名古屋へ4時10分に着いたと。そして、名古屋の取引先とビル内の飲食店で飯を食ったと。6時ちょうどに丁重にお礼を言ってリニアに乗って、6時20分発の品川行きに乗りこむと。7時に品川駅に着いたと。残念ながら、ここには中津川でとまったという記述がないものですからちょっとがっかりしたんですが、ここに今日は新聞記者の皆さん方もおられますが、ぜひこういうようなちょっとおもしろいリニア記事を書いていただけたらありがたいなと。そうすると、市民の皆さんがもっともっと夢が膨らんでくるのかなと、こんなふうに思います。駄弁を弄しましたことをお許しいただきたいと思います。済みません。

【委員長】 ありがとうございます。

地元協議用資料、地元というのは、ここでは中津川市全域を指しているわけではありません。美乃坂本周辺地域というふうに考えていただいたらいいんですが、ですから、あまり中津川の中心市街地との接続の問題とかそういう話はまだここには触れてありませんけれども、いかがでしょうか。これについて何かご意見、あるいはご質問ございませんでしょうか。

それで、実は、地元の坂本地区では協議をそれなりに進めていただいているようでございます。そこで、地元の代表者でいらっしゃいます坂本地区リニア中央新幹線対策協議会の会長をしていただいております市岡委員から、少しご報告をいただこうかと思うんですが、いかがでしょうか。

【委員等】 それでは、竹内委員長からせっかく発言の機会をいただきましたので、この整備イメージの叩き台について、地元の捉え方等について若干述べさせていただきますと思います。地元ですのでエゴが出るかもしれませんが、その点についてはどうぞご容赦ください。

坂本地区の地域住民としましては、現状、特に進出が予定されている沿線地域では、住民が日一日と迫ってくる来秋の正式発表、路線計画を固唾を飲んで待っておるという毎日でございます。それで、いろいろ言ってもいけませんので2点に絞って、まず、新駅をコアにした道路インフラの整備、今、いろいろお話があったわけですが、これは全ての基本になるということであると思います。従って、そのあたりが一番大きな関心があるところでございます。

特に、さっき事務局がおっしゃったように、この地域は細かい道路の整備が極めて不備でありまして、本当に迷路を走っているような地域であるわけです。従いまして、大きな路線、大きな道路網と加えて、こういったことも整備していかなくちゃいかんということについては強い住民の要望があります。

それから、リニア路線、新駅、車両基地の進出で直接的に移転を迫られるような住民の人がかなり

出てくるであろうということが予測されまして、予想の段階ではあるけれども、俺は実は引っ越さないかんのじゃないかというような不安を持っている方もたくさんいます。そういったことを含めて、地元としてはいろいろと頭の痛い問題があるわけです。

この叩き台については、現段階で全てが予測という段階では、非常にコンパクトにまとまってよくできているという地元の評価が1つあります。それから、よく従来ですと、駅前にパチンコがあったり、アミューズメントがあったり、そういうのは地元としても極力排除してほしいという声が強いわけでして、そういったものが書かれていない点も大変評価できる。

それから、地元住民としては、今まで具体的なイメージというものが全く湧かなかったという点があるわけですが、叩き台としてこれらが示されたということは、1つ具体的なイメージが描けるようになったということについてはかなりの評価を得ております。しかし、これはあくまで叩き台でございますので、これから時間の経過に伴って進化していくものというふうに思っておりますし、地元としても、また大いにわがままを言って、大いに叩かせていただきたいというふうに考えております。

そんなことで、リニア対策委員会を月に1、2回開いて、毎回9時、10時まで熱い検討をしております。地元としてはそんな動きでございますので、ちょっと報告させていただきました。

以上でございます。

【委員長】 ありがとうございます。

いろいろ細かい点でのご指摘はございましたけれども、全体としては私は非常に温かい見守り方をいただいているような感じがいたしました。どうもありがとうございました。

他にこの際ご発言のある方、いらっしゃいませんか。

ちょっと私の、先ほどの事務局の説明でいいんですけど、私なりにちょっと強調しておきたいところがございまして、この駅をよそから来るお客さんが降り立ったときに、やっぱり一番の売り物は恵那山の姿だと思うんですね。ここは非常にいいですね。そういうことからいくと、このところの新駅と在来線の駅の間にサービス施設というのがありますし、連絡通路がありますけど、このサービス施設や連絡通路のところから、この絵でいうと、右手やや下という感じのほうに見える恵那山の眺望をぜひ最大限に生かすような設計にしていく必要があるなと思っております。

それともう一つは、サービス施設というのが、この絵の描き方はこれでいいんですけど、ちょっと小さいんじゃないかなと。といいますのは、このサービス施設というのは誰がやるのか。これこそまちづくりのほうで考えないと、鉄道事業者がやってくれるわけではございません。ただし鉄道事業者の土地ですとか、それからこれから誰が、公的にどこが手に入れることができるのかということになってきますけれども、そういう土地を使ってやる。今、いろんな事業方式が検討されておりますけれども、いわゆるPFIという民間の資力を使って、私が望ましいと思っておりますのは、地元の民間の資力を使って1つのビルをつくって、その中で、総合的な観光案内ですとか土産物販売ですとか、そういうようなことをまとめてやっていく事業を民間の発意でもって企画推進するというやり方、そういうことに結びつけていくことができるんじゃないかと思っています。そんなこともぜひ合わせて念頭に置いて、こういう議論をしていただくといいのではないかと思います。

もし、皆さんが、それはどんなイメージのものなんだと言われるんだとすれば、私は、割に近いところでは、東海道新幹線の掛川駅の新幹線側の高架下に「これっしか処」という店がございまして。これは地元の公共でやった土産物の販売店なんですけど、これは初め小さなものでやっていたのが随分今広がってきております。これなんかはいい例だろうと思います。こういうようなものをまさに地元の人たちの発案と資金力でやればこんなに素晴らしいことはないなと、こう思っているんですけども。ちょっと余分なことを付け加えさせていただきました。

じゃ、この叩き台、今日、若干注文もつきましたけれども、そういう細部を詰めていただいた上で、地元の説明に参考資料として使われることについて、皆さんのご了承をいただいたことにしてよろし

ゆうございますか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 ありがとうございます。

私、県の活用戦略研究会の基盤整備部会の座長も務めているのでございますけれども、地元の意向を踏まえた上で協議を進めていきたいと思っております。これは手元のシナリオに、そう言えと書いてあるんですけど、今日、議事3で議論していただいたところは、私の考えておるところと、概ねというか、ほとんど合致しておりますので、私のそういう考え方に従って県のほうの案にも働きかけてまいりたいと思います、というふうに言わせていただきます。

もちろん、叩き台でございまして、冒頭に申し上げたように、駅位置とか線路の位置もまだ決まっておられません。決まりましたら、それに合わせてこの今日お見せした概念図をより現実的なものに変えていくということになろうかと思えます。そういうことで、さきに議決させていただきましたけれども、ご承認をいただいたということにさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、ちょっと時間が遅くなっておりますけれども、これで私のほうにお預かりした議事3つ終了でございますけれども、この際、全体を通して何かご質問やご意見がございましたらお伺いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

それでは、今日はちょっと時間が押しておりますので、これで本日の議事は全て終了ということにさせていただきます。どうもご熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。

じゃ、事務局にお返しいたします。

【司会】 どうもありがとうございました。

市といたしましても、ビジョン作成に全力を挙げて取り組んでまいりますので、今後とも、皆様のご指導、ご協力をひとつお願いいたします。

それでは、その他のほうに入らせていただきます。

まず最初に、「次回以降の開催について」でございますが、次回の第4回策定委員会につきましては、あらかじめ日程をお知らせさせていただいておりますけれども、年が明けまして25年2月18日の月曜日14時からということで、会場についてはこの会場に予定しておりますので、お願いいたします。年明けということで、まだ忙しい時期がなかなか抜けないかと思えますけど、ひとつご出席の方よろしくお願いいたします。

また、次回の策定委員会には、先ほどビジョンの素案を提示させていただくというご説明をしておりますけれども、その委員会の以後に、各委員の皆様、アドバイザー、オブザーバーの皆様と直接お会いしてご意見をいただく機会をつくりたいというふうなことも考えておりますので、また後日日程等を調整させていただきますので、ひとつよろしくお願いいたします。

次に、お手元に資料、チラシを配付してございます。11月8日に公益社団法人岐阜県不動産鑑定士協会と県のリニア中央新幹線活用戦略研究会が共催いたしまして、岐阜県等の後援によりまして、市民公開講座としまして、リニア中央新幹線と岐阜県のまちづくりを考えると題しまして講演会が開催されます。これにつきましては、県のリニア推進事務所、岩田課長より詳細についてご説明をひとつお願いいたします。

【委員等】 リニア推進事務所の岩田でございます。

時間も押しておりますので簡単にご説明をさせていただきます。ただいまご紹介がありましたように、岐阜市内でございまして、岐阜県の不動産鑑定士協会との共催により市民講座を開催いたします。この市民講座におきましては、本日ご出席の丸山副委員長にもパネリストとしてご参加いただくこととしており、また、恵那市の観光協会の鎌田様にも出ていただくこととしております。当日の参加も

可能ということでございますので、既にお申し込みをされた方も多いかと思いますが、当日の参加も可能でございますので、ぜひご参加いただければと思ひまして、ご紹介をさせていただきます。

以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。

また、竹内委員長にはこのコーディネーターもなさっていただくということですので、どうぞひとつよろしく願ひいたします。また、講演会に出席される場合には、リニア推進課の方までひとつお申し出をいただきますよう願ひいたします。

それでは、長時間にわたりましてご審議いただきまして、誠にありがとうございました。最初にお願ひをさせていただきましたように、議事録を含めて、今回の資料につきましては全て公開をさせていただきますので、よろしく願ひいたします。

それでは、閉会に当たりまして、最後に高木副委員長より閉会の言葉をお願いいたします。よろしく願ひいたします。

【副委員長】 皆様、本日は長時間に渡りましてご議論いただきまして、どうもお疲れさまでございました。ありがとうございます。

最後に少し挨拶ということでちょっとさせていただきます。秋が短いということでしたけれども、このところずっと週末、研究室の学生と色々な地域でイベント等々を開催を、お手伝い等々も含めてなんですけどやっております。昨日は飛騨のある集落に行って、そば祭りの中で、研究室独自で少し企画を立てたりとか、そんなようなことをしております。

あるいは、先週は、岐阜で今、長良川おんぱくという着地点型の観光をやっている。そういう個人向け、あるいは女性向け、家族向け、そういうようなプログラムなんかを少しお手伝いしておりますけれども、先ほど丸山副委員長からもおっしゃいましたように、何かしてみるとか、そういうことの体験型、あるいはそこじゃないと食べられないものとか、そういうようなこと等が、やはりこれからの交流とかそういうものに対して非常に大切じゃないかなというふうに思っております、それは学生も教育も含めて進めておるところでございます。

こんなことはもちろん皆さんも重々ご承知かと思ひますけれども、そういうことをやっていくためには、まちづくりは人づくりというふうな言葉がありますように、そういうことをやれるような人材の育成とか、そういうことをやっていかなくはないかなというふうに思ひまして、そのあたりも、大学としても、社会人向けの講座を開いておりますし、先ほど、女性・若者委員会の中でワークショップをやられているんなご議論をされたということなんですけれども、そういう非常に広くリニアというものに対して何ができるのかとか、あるいはその前にもう少し勉強会というものかもしれませんけれども、一般市民向けに、こういう非常に地道なとか、そういう活動をたくさん広げて行って、そこで市民一人一人がこのリニアというものに対してどういうことができるのかというのを考えていくような機会をたくさんつくっていただければ大変いいかなというふうに思ひます。

まだまだこの議論がスタートしたばかりですけれども、でも、もうすぐ工事等々には進んでいくことですので、1つずつ、少しずつでも皆さんと一緒にいろんな活動がしていければというふうに思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願ひいたします。

【司会】 ありがとうございます。それでは、本日の会議は終了をさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

— 了 —